

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：13601
 研究種目：基盤研究(B)（一般）
 研究期間：2019～2021
 課題番号：19H01700
 研究課題名（和文）知的障害特別支援学校におけるスクールカウンセリングの実態と適用上の課題の検討

研究課題名（英文）The Actual State and application of School Counseling in Special Needs Schools for children with intellectual disabilities

研究代表者
 下山 真衣（Shimoyama, Mae）
 信州大学・学術研究院教育学系・准教授

研究者番号：00609620
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,900,000円

研究成果の概要（和文）：知的障害特別支援学校において、児童・生徒のメンタルヘルスに関するニーズは高く、学校もそれに応じた校内支援体制を作り、支援を実施してきている。スクールカウンセラーへの期待も高く、スクールカウンセラーは知的障害のある児童・生徒に適應するための工夫をそれぞれが行っているが、個々の努力で行われており、教育や福祉サービスへの知識の不足などを考えれば、知的障害特別支援学校に勤務するスクールカウンセラー向けの研修が必要である。担任との連携や勤務日数の課題については校内支援体制に関わる重要な事項であり、都道府県市区町村単位で、知的障害のある児童・生徒のメンタルヘルスの支援体制を検討する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

知的障害特別支援学校における児童・生徒のメンタルヘルスに関するニーズは高いことが明らかとなり、知的障害特別支援学校における校内支援体制とスクールカウンセラーの活用状況について基本的情報を提供することができた。さらに知的障害のある児童生徒に適應したカウンセリングの工夫や課題が明らかとなり、スクールカウンセラーに必要な研修、児童・生徒のメンタルヘルスに関する校内支援体制について提言をまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：In special needs schools for children with intellectual disabilities, there is a high demand for addressing the mental health needs of students, and schools have established on-site support systems to meet those needs and provide assistance. School counselors are also highly anticipated in these schools, and each counselor makes efforts to adapt to the needs of students with intellectual disabilities. However, these efforts are made individually, and considering the lack of knowledge in education and welfare services, it is necessary to provide training specifically tailored for school counselors working in special needs schools for individuals with intellectual disabilities. Collaborating with homeroom teachers and addressing challenges related to working days are crucial aspects of the on-site support system, and at the prefecture and municipal level, it is essential to examine the support system for the mental health of students with intellectual disabilities

研究分野：障害児者心理学

キーワード：知的障害 特別支援学校 スクールカウンセリング スクールカウンセラー メンタルヘルス 校内支援体制

1. 研究開始当初の背景

(1) 知的障害のある子どものメンタルヘルスの状況

知的障害のある子どものメンタルヘルスの問題（不安、うつ、強迫性障害、問題行動等）は一般の子どもに比べ3~4倍も発生率が高く（Emerson & Hatton, 2007）、3分の2が成人になってもメンタルヘルスの問題を抱えている（Einfeld et al., 2006）。しかしながら、知的障害のある人へのカウンセリングは従来適切ではないと考えられ、支援や相談の対象外とされてきた（Prout, 2013）。

(2) 知的障害特別支援学校におけるスクールカウンセリング

知的障害特別支援学校においてもスクールカウンセリングなどの教育相談ニーズがあることが推測される。しかし、知的障害特別支援学校のスクールカウンセラーはその配置が少なく、その校内体制・相談状況などの実態は不明であり、加えてスクールカウンセリング適用上の課題についてもほとんど検討がなされていない状況にあった。

2. 研究の目的

上述した背景から、本研究では知的障害特別支援学校の児童・生徒に対するスクールカウンセリング活動の実態と適用上の課題を明らかにし、それらに関連する基本的なデータを提供することを目的とした。目的を達成するための課題は以下の3つであった。

課題1：知的障害特別支援学校におけるスクールカウンセリング活動の実態（スクールカウンセラーの配置校数、校内体制、相談内容、相談の工夫と課題）を明らかにする。

課題2：知的障害のある児童・生徒へカウンセリングを実施する場合の適用上の工夫と課題（心理アセスメント・カウンセリング実施）について明らかにする。

以上の2点の課題から、知的障害特別支援学校におけるスクールカウンセリングの基本的な情報と課題を整理し、提言へと結びつける。

3. 研究の方法

(1) 知的障害特別支援学校におけるスクールカウンセリングの実態

①全国の知的障害特別支援学校775校へのアンケート調査を実施した。調査内容は、児童生徒のメンタルヘルスと精神疾患の診断状況、児童生徒のメンタルヘルスに関する校内支援体制状況、スクールカウンセラーの派遣・配置状況と期待する業務内容などであった。

②知的障害特別支援学校でスクールカウンセリングを行なっている学校への訪問調査を実施した。調査内容は、知的障害特別支援学校における児童・生徒のメンタルヘルスのニーズ、校内支援体制状況、スクールカウンセラー活用状況であった。

③全国の特別支援学校におけるスクールカウンセラー派遣状況の文献調査を実施した。文部科学省の「スクールカウンセラー実践活動事例集」および「特別支援教育資料」をもとにスクールカウンセラーの派遣・配置状況について整理した。

(2) 知的障害のある児童・生徒へのアセスメント・カウンセリングの適用上の課題と工夫

①知的障害特別支援学校のスクールカウンセラーへのアンケート調査を実施した。主に、児童・生徒の相談ニーズの把握の工夫、児童・生徒の相談面接時の工夫、保護者の相談面接時の工夫、教職員へのコンサルテーションの工夫、スクールカウンセリング上の課題について調査した。

②知的障害のある児童・生徒への心理支援の事例検討を実施した。知的障害のある児童・生徒への心理支援について複数事例検討を実施し、アセスメントと心理支援の実施に関する工夫と課題を整理した。

4. 研究成果

(1) 知的障害特別支援学校の児童・生徒のメンタルヘルスの状況

調査に協力した学校261校のうち、学校にメンタルヘルスに不調がある児童生徒いる学校235校(90.0%)で、そのうち精神疾患の診断を受けている児童・生徒が在籍している学校169校(64.8%)だった。加えて、問題行動を示す児童・生徒が在籍した学校は236校(90.4%)であった。ほとんどの学校において、児童・生徒にメンタルヘルスのニーズがあることが明らかとなった。

(2) 知的障害特別支援学校の児童・生徒のメンタルヘルスに関する校内支援体制

調査に協力した学校261校のうち、児童生徒のメンタルヘルスについて校内委員会で取り扱っている学校は194校(74.3%)であった。校内委員会の構成は、教頭、養護教諭、校長、担任、部主任、生徒指導担当教員、特別支援教育コーディネーター、学年主任、主幹教諭、副校長、スクールカウンセラー、寄宿舎職員、自立活動専任教員などであった。地域の学校の校内委員会

と同様の構成であることに加え、特別支援学校なら職員として、寄宿舍職員や自立活動専任教員が加わっていることがわかった。

調査に協力した学校 261 校のうち、スクールカウンセラーが配置されている学校は 143 校 (54.8%) であった。一方で、文科省が公表している資料を分析し、スクールカウンセラーが配置されている特別支援学校の割合を調べたところ、公立の特別支援学校数 1087 校中、スクールカウンセラーが配置されている特別支援学校は 360 校 (33.1%) であった。特別支援学校にスクールカウンセラーを 1 校以上配置しているのは 35 の都道府県と指定都市で、1 校もスクールカウンセラーを配置していない都道府県と指定都市は 33 であった。文科省の公表している資料からは、特別支援学校のスクールカウンセラーの配置は他の学校種に比べ、かなり低く、また地域間格差が著しいことが明らかとなった。

(3) スクールカウンセラーに期待する業務

スクールカウンセラーに期待する業務の主要なものは次のとおりであった。知的障害のある児童・生徒のカウンセリング、保護者の相談、教師へのコンサルテーション、知的障害のある児童・生徒のメンタルヘルスに関する予防的支援、研修や講演会、問題行動への対応、不登校への対応、知的障害のある児童・生徒の実態把握、障害特性に関する専門的助言、校内教育相談体制への貢献、外部機関との連携、教師と保護者とのコーディネーション、いじめへの対応、教師間のコーディネーションであった。知的障害特別支援学校の訪問調査では、高等部の生徒たちへのカウンセリングによりニーズがあることがわかった。

(4) 知的障害特別支援学校におけるスクールカウンセラーの業務

知的障害特別支援学校に勤務するスクールカウンセラーが主に行なっている業務は、面談とコンサルテーションであり、学校から期待されている業務は面談、コンサルテーション、予防的支援（授業参観による実態把握や問題の早期発見、ストレスマネジメントなどの授業協力など）であった。

校内支援委員会にはスクールカウンセラーはあまり参加できていないものの、学校内でスクールカウンセラーの意見や考えが学校の支援体制により反映されていると考えている回答が多かった。また、教員との情報共有についてもよくなされていた。

(5) 知的障害のある児童・生徒の相談内容

児童・生徒のスクールカウンセラーへの相談内容の主要なものは、友人関係、家族との関係、主訴ははっきりしないが情緒の不安定さ、自己理解、進路、教師との関係であった。

(6) 知的障害のある児童・生徒へのカウンセリングの工夫

スクールカウンセラーが知的障害のある児童・生徒にカウンセリングを行う際に工夫していることとして、傾聴を重視すること、具体的な行動を助言すること、労いの言葉をかけること、具体的に見通しを立てること、緊張を和らげるための取り組みをすること、知的能力の特性を踏まえた方法をとること、行動の機能や相互作用を客観的に把握・説明することなどが挙げられた。スクールカウンセリングを実施する上での具体的な工夫は、以下のように整理できた。

- ① カウンセリングや相談室のイメージを持ってもらうための工夫：写真などの視覚的な支援を使用すること、スクールカウンセラー便りにルビを振ること、新入生全員面接の実施時にカウンセリングの意味や利用方法を伝えること
- ② 信頼関係を作るための工夫：普段から児童・生徒と会話することを心がけること、給食を共にとること、校内巡回をすること
- ③ カウンセリング実施の工夫：導入にアイスブレイクの活動の設定、児童・生徒の好きそうなことを話題にすること、面接時間を短めに設定すること（30分程度）、カウンセリングに慣れない児童・生徒の場合は教員に同席してもらうこと、具体的に話すこと、児童・生徒の話したことについて「こんなことかな」と確認をすること

(7) 知的障害特別支援学校におけるスクールカウンセリング活動の課題

スクールカウンセラーがカウンセリング活動を行う上で課題と感じていることは、特別支援学校（知的障害）の就労に関する実習や卒業後の就労への知識の不足、福祉サービスや福祉の制度の知識、担任との連絡・連携の方法、配置・派遣日数、特別支援学校（知的障害）教育課程の知識の不足などであった。通常のカウンセラーとしての教育・研修では特別支援学校の教育課程や就労、福祉制度やサービスの知識を得ることはできないことから、知的障害特別支援学校に勤務するスクールカウンセラーには独自の研修の必要性があることが明らかとなった。さらに、担任との連絡・連携、配置・派遣日数など校内支援体制に関わる課題も見出された。

(8) 知的障害特別支援学校におけるスクールカウンセリングに関するまとめと提言

知的障害特別支援学校において、児童・生徒のメンタルヘルスに関するニーズは高く、学校もそれに応じた校内支援体制を作り、支援を実施してきている。スクールカウンセラーへの期待も

高く、スクールカウンセラーは知的障害の児童・生徒に適応するための工夫をそれぞれが行なっているが、個々の努力で行われており、教育や福祉サービスへの知識の不足などを考えれば、知的障害特別支援学校に勤務するスクールカウンセラー向けの研修が必要である。担任との連携や勤務日数の課題については校内支援体制に関わる重要な事項であり、都道府県市区町村単位で、知的障害のある児童・生徒のメンタルヘルスの支援体制を検討する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 大石幸二	4. 巻 17
2. 論文標題 発達に心配がある乳幼児支援のための行動コンサルテーション実践の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学校ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 77-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 作田 由香・西江 宏行・岩佐 和典・中塚 秀輝	4. 巻 43
2. 論文標題 慢性腰下肢痛で生活に支障を来した若年女性に対して認知行動療法が有効であった一症例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペインクリニック	6. 最初と最後の頁 966-970
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大石幸二	4. 巻 43
2. 論文標題 保育所・幼稚園における巡回相談と早期発達支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 発達障害研究	6. 最初と最後の頁 149-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takanobu Sakai, Shigeki Sonoyama	4. 巻 45
2. 論文標題 The Mental Health Status of Japanese High School Students with Autism Spectrum Disorder Tendency	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Disability Sciences	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田望・竹内康二	4. 巻 0
2. 論文標題 注意欠如・多動性障害児における代理的自己モニタリングの効果 カードゲーム場面でのルール違反行動の低減	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 行動分析学研究	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堂山亞希・原田薫・宇佐美太郎・高津梓	4. 巻 59
2. 論文標題 思春期の課題に直面した軽度知的障害のある女子生徒への相談支援 特別支援学校教員とスクールカウンセラーとの連携による支援実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 169-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山友菜・橋本創一・日下虎太郎・竹達健頭・田口禎子・三浦巧也・堂山亞希	4. 巻 18
2. 論文標題 知的障害のある中高生の過剰適応に影響を及ぼす個人要因の探索的検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京学芸大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下山真衣	4. 巻 14
2. 論文標題 知的障害のある子どものメンタルヘルスの不調と心理支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本学校心理士会年報	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下山真衣	4. 巻 41
2. 論文標題 スクールワイドPBISにおける家庭や地域とのパートナーシップの展望 (特集 わが国における学校を舞台とする積極的な行動支援(SWPBIS)の現在)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 発達障害研究	6. 最初と最後の頁 230-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hosogoshi Hiroki, Iwasa Kazunori, Fukumori Takaki, Takagishi Yuriko, Takebayashi Yoshitake, Adachi Tomonori, Oe Yuki, Tairako Yukino, Takao Yumiko, Nishie Hiroyuki, Kanie Ayako, Kitahara Masaki, Enomoto Kiyoka, Ishii Hirono, Shinmei Issei, Horikoshi Masaru, Shibata Masahiko	4. 巻 14
2. 論文標題 Pilot study of a basic individualized cognitive behavioral therapy program for chronic pain in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BioPsychoSocial Medicine	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13030-020-00176-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwasa Kazunori, Komatsu Takanori, Kitamura Ayaka, Sakamoto Yuta	4. 巻 11
2. 論文標題 Visual Perception of Moisture Is a Pathogen Detection Mechanism of the Behavioral Immune System	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.00170	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takanobu Sakai, Masayoshi Tsuge, Sae Kouchiyama, Shigeki Sonoyama	4. 巻 8
2. 論文標題 A Survey of Truancy at Special School for Children With Intellectual Disabilities in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Special Education Research	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Matsusita, Maiko Okumura, Takanobu Sakai, Mae Shimoyama, Shigeki Sonoyama	4. 巻 8
2. 論文標題 A study on the enrollment rate of children with selective mutism in kindergarten, elementary school, and lower secondary school in Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Special Education Research	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋元響・大石幸二・若井広太郎・藤井瑠利子	4. 巻 25
2. 論文標題 自閉スペクトラム症児の心理化の促進 逆模倣による介入の効果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間関係学研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小笠原忍・竹内康二	4. 巻 -
2. 論文標題 中度知的障害があるASD児を対象とした社会的スキル「大丈夫？」の獲得及び般化を促すビデオプロンプトの効果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 小林幹太・福田弥咲・山口遼・野元明日香・堂山亜希・杉岡千宏
2. 発表標題 特別支援学校教員の求めるスクールカウンセラーの役割・機能に関する調査報告：特別支援教育コーディネーターに対する質問紙調査
3. 学会等名 日本発達障害支援システム学会2022年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林幹太・橋本創一・山口遼・野元明日香・堂山亞希・杉岡千宏
2. 発表標題 特別支援学校におけるスクールカウンセラーの役割・機能に関する調査報告
3. 学会等名 日本発達障害学会第57回研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 熊谷恵子・佐々木順子・山本ゆう・堂山亞希・佐藤七瀬・渡邊則子・小島道生
2. 発表標題 特別支援学校におけるスクールカウンセラーへのニーズと役割
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林愛・下山真衣
2. 発表標題 行動上の問題を示す重度知的障害と自閉スペクトラム症のある生徒への自己欲求を充足する支援の検討
3. 学会等名 日本特殊教育学会第 60 回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原洋平・下山真衣・小林愛・平方素樹・大石幸二
2. 発表標題 知的障害児にとって意義のある交流及び共同学習のあり方
3. 学会等名 日本特殊教育学会第 59 回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 下山真衣・宇野千登世・堂山亞希・茅野理恵
2. 発表標題 知的障害特別支援学校におけるスクールカウンセリング - 知的障害のある子どものメンタルヘルスと心理的支援 -
3. 学会等名 日本学校心理学会第23回福岡大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 下山真衣・園山繁樹
2. 発表標題 知的障害者の精神疾患及び問題行動の発生と関連要因
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下山真衣・濱嶋健二・山崎福太郎・大石幸二
2. 発表標題 生徒が主体的に学ぶ授業づくり
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小笠原忍・竹内康二
2. 発表標題 ASD児を対象としたビデオ指導による挨拶行動の獲得とその効果に関する検討
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田望・竹内康二
2. 発表標題 中度知的障害を伴うASD児への疑似的自己モニタリングを用いた行動支援
3. 学会等名 日本行動分析学会第37回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井貴庸
2. 発表標題 自閉症スペクトラム指数（AQ）の高校生への使用方法に関する検討
3. 学会等名 日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堂山亞希
2. 発表標題 知的障害特別支援学校における不登校とスクールカウンセリング（特別支援学校（知的障害）における スクールカウンセリング）
3. 学会等名 日本心理臨床学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堂山亞希・原田薫・宇佐美太郎・高津梓
2. 発表標題 知的障害特別支援学校における女子生徒への相談支援 担任教師とスクールカウンセラーとの連携による支援
3. 学会等名 日本発達障害学会第54回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原田薫・堂山亞希・宇佐美太郎
2. 発表標題 軽度知的障害のある女子生徒の思春期的課題への支援実践 特別支援学校教諭とスクールカウンセラーとの連携による支援の実際
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 下山 真衣	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学苑社	5. 総ページ数 146
3. 書名 知的障害のある人への心理支援	

1. 著者名 杉中 拓央、呉 裁喜、松浦 孝明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 180
3. 書名 教職をめざす人のための特別支援教育	

1. 著者名 エリック・エマーソン、スチュワート・L・アインフェルド、園山繁樹、野口幸弘	4. 発行年 2022年
2. 出版社 二瓶社	5. 総ページ数 264
3. 書名 チャレンジング行動 ー強度行動障害を深く理解するためにー	

1. 著者名 大石幸二、竹森亜美、須田なつ美、染谷怜	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学苑社	5. 総ページ数 124
3. 書名 先生のための保護者相談ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹内 康二 (Takeuchi Koji) (00400656)	明星大学・心理学部・教授 (32685)	
研究分担者	岩佐 和典 (Iwasa Kazunori) (00610031)	大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・准教授 (24403)	
研究分担者	堂山 亜希 (Doyama Aki) (00759392)	目白大学・人間学部・専任講師 (32414)	
研究分担者	酒井 貴庸 (Sakai Takanobu) (50744108)	甲南女子大学・人間科学部・准教授 (34507)	
研究分担者	大石 幸二 (Oishi Kouji) (80302363)	立教大学・現代心理学部・教授 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------